

『現代の名工』を訪ねて

廣井 俊文氏

アーケ溶接工 坂口製作所

「まさか、このような 本當にうれしい」と喜び
名譽な賞をいただけることを口にする坂口製作所の
は思っていなかったのだ。廣井俊文氏。長年にわた



「基本がすべての始まり」が信条の廣井さん

りアルミ・ステンレス溶
接作業に従事し、卓越し
た技能で割れやひずみと
いった溶接における諸問
題を解決。高精度・高品
質な製品群を世に送り出
している。同氏が手がけ
る製品は、新幹線搭載機
器のアルミ箱枠や原子力
燃料輸送容器など高精度
・高信頼性が求められる
ものばかりだ。

川崎重工工業で造船作業
に携わり1977年坂口
製作所に入社。以来36年
間、溶接技能者として新
幹線用アルミ箱枠をはじめ
各種アルミ・ステンレ
ス製品の溶接を担当。現
在も現役作業員として現
場で陣頭指揮、後進の指
導にも熱心に取り組む。
同氏が指導した若手徒
業員は昨年開催された全

国軽金属溶接技術競技会
で優勝。また地元・和歌
山の箕島高校機械課でア
ルミ溶接の実習指導も行
っている。

ステン・アルミの職人 社の名声高めた功労者

だろ」と評価する。
同社はバブル経済崩壊
後、それまでの量産品か
ら新幹線の部品や原子力
関連製品など付加価値の
高い製品へシフト。こう
いった製品は、当然製造
工程におけるハードルも
高くなる。新幹線に搭載
される各種機器のアルミ
箱枠では最も大きいサイ
ズでは1辺が2〜3メートル
あり、構造が複雑な上、
寸法公差も厳しい。
溶接作業においてはひ
ずみが最大の敵だ。一方
原子力発電所で使用され
る燃料棒の集合体を輸送
する際に用いられる専用
ステンレス製輸送容器で
は、非常に高い品質と信
頼性が求められる。
これら難溶接に対し、
同氏は技量とノウハウ、
知識で対応。坂口製作所
の溶接技術がアルミ・ス
テンレス溶接業界から高
い評価を得る礎を築いた
功労者だ。

うだが、話してみると気
さくに様々なことを教え
てくれる。特に溶接に関
する知識の真、ノウハウ
は他の追随を許さないも
のがある。一途な職人気
質の廣井さんだからこ
そ、年の離れた若者から
も尊敬され支持されるの
が溶接を始めた頃は指導
マニュアルや講習会があ
り、構造が複雑な上、
寸法公差も厳しい。
溶接作業においてはひ
ずみが最大の敵だ。一方
原子力発電所で使用され
る燃料棒の集合体を輸送
する際に用いられる専用
ステンレス製輸送容器で
は、非常に高い品質と信
頼性が求められる。
これら難溶接に対し、
同氏は技量とノウハウ、
知識で対応。坂口製作所
の溶接技術がアルミ・ス
テンレス溶接業界から高
い評価を得る礎を築いた
功労者だ。

坂口社長は、「当社が
アルミ筐体をはじめた時、
接業界で多少なりとも評
価を高めたのは、廣井さん
の功績だ。この経験や知識、
2、第3の名工が誕生す
るわけではなく、日々先
輩の技術を見て学ぶしか
なかつた。その中で溶接
技量を高めるため、特に
基本的な姿勢で何度も練
習することに心がけた」

（ひろい・としひら）
和歌山県出身、57歳。